

【巻頭言】ヘフリーワーカーの街・釜ヶ崎への発想転換 八木 正 ⑥

特集I ●釜ヶ崎労働者の現在

「釜ヶ崎労働者の現在」を考える 福原宏幸 ⑧

就労状況からみた釜ヶ崎労働者の現在 島 和博 ⑫

釜ヶ崎労働者と自治体行政 平野佐敏 ⑫

「暴動」から見た寄せ場の文化 平川 茂 ⑫

「先進」と「後発」の遭遇  
—釜ヶ崎と猪飼野の場面から— 青木秀男 ④⑩

図書紹介

澤井 勝著 『変動期の地方財政』 (敬文堂) 長沼進一 ⑤④

佐和隆光著 『平成不況の政治経済学』 (中公新書)

牧野 昇/高橋乗宣著 『日本経済「悪魔の選択」はあるか』 (徳間書店)

佐藤 洋 ⑤⑥

デボラ・ミッチェル著 埋橋孝文・三宅洋一・伊藤忠通 北 明美・伊田広行 共訳  
『福祉国家の国際比較研究』 (啓文社) 川口 章 ⑤⑧

江橋 嵩著 『外国人は住民です』 (学陽書房) 別当良博 ⑥⑩

鶴見俊輔/森 毅他著 『殺すこと殺されること』 (インパクト出版会) 牧口誠司 ⑥⑫

名所・旧跡ぶらり散歩 大阪いいところ・あんなところ・こんなところ  
〈16〉 鶴森宮神社と越中井 畑中 稔 ⑥④

特集II ●自治体問題研究講座 『新段階の日本の政治と経済』

# 新・都市自治論 大阪市政調査会編

## 魅力ある都市を目指して

大阪市政調査会の創立三〇周年記念事業として刊行  
大都市大阪とその行財政の直面する諸問題を追及し、現在における都市問題および  
都市政策の問題点の提示へのひとつの試み

定価三〇〇〇円 (税込)

(株) きょうせい  
東京都新宿区西五軒町4-2  
電話 03-3268-2141(代)

への発想転換

〈パブル経済〉の崩壊による構造不況がいま、その矛盾を順次弱い部分にシワ寄せする形で重層下請けの末端に位置する日雇い労働者たちを直撃し、野宿せざるをえない高齢労働者の激増を招いている。寒空に思いいもいに生活の知恵を働かせて休んでいるその姿は、南大阪の釜ヶ崎地区とその周辺からさらに溢れて、北大阪にまで及んでいる状況である。これをいつも通りに、単に景気循環に必然的な通常の現象とのみ見るべきか否か、実のところ私は考えこんでしまっている。

というのは私は現在、労働者をふくむ研究仲間と共に、「関西国際空港建設労働調査」に取り組みつつあるのだが、その過程で巨大建設プロジェクトの労働力調達方法にある根本的な変化が生じているのではないかと推定される諸事象にぶつかっているからである。すなわち、従来のような釜ヶ崎での直接求人影をひそめ、「顔づけ」求人組織化するような形で選別した日雇い労働者を、「空港島」対岸の地元事業所ないし南大阪の「西成労働福祉センター」登録の事業所に名目的に組みこみ、労務・生活管理の徹底をはかっているかのような兆候がうかがえるのである。

逆に言えば、事業所と何らかのコネをもち、労働能力や勤務態度などによって選別された日雇い労働者たちが各事業所の作業員宿舎にもぐりこんでいる反面、そこからあふれた比較的高齢の多くの失業労働者たちは、簡易宿泊所にも当然泊まられず、野宿を強いられるのである。もしこれが事実であり、今後も続く傾向であるとするならば、労働者だけにとどまらず、宿泊、飲食、娯楽などの各業者をふくむ釜ヶ崎の地域社会全体にも大きな影響をもたらすことになるだろう。



〈フリーワーカーの街・釜ヶ崎〉

とはいえ、本質的に請負産業であり、景気変動に直接連動する建設土木業にとっては、その就労態様がどうであれ、日雇い労働者そのものは構造的に必要不可欠の存在でなければならぬ。とするならば、たとえ就労先が不定で、大阪や近畿ブロックを越えて他地方ブロックにまで及ぶ流動的な労働者ではあっても、大阪の当地で仕事を求める労働者たちが存在する限り、その就労のための居住地域は当然保障されてしかるべきであると考へざるをえない。

こういう基本的な発想転換に踏み切らないと、都市行政はいつまでたっても「場当たり」的となりがちな「対策」のくり返しから抜け出せないのではなからうか。果ては、定住市民層を巻きこんで「スラム・クリアランス」なる運動を展開する、強権的な取り締まりの観点にしか立てなくなるのではないだろうか。ついでに言えば、税金を納付している市民層への配慮を言い立てる向きもあるが、その考えは社会福祉の原点を見失っているばかりでなく定住して、税金を納めていながら地方参政権をもたない「在日」外国人住民に対する処遇を一体どう説明するのであろうか。

要は、釜ヶ崎労働者の特性と実態を的確に把握し、さらに釜ヶ崎地区の地域特性を押しさえて大阪の総合都市計画の中に位置づけ、その双方を踏まえて行政施策を総合的かつ抜本的に組み替えるぐらいたく大胆な発想転換が望まれるのである。

〈フリーワーカーの街・釜ヶ崎〉の構築。——それは、あまりにも大胆すぎる私の夢想にすぎないのであろうか。